

歴史探訪

むかしむかしの中野村 象が一頭おつたとぞ

八代將軍吉宗の頃、中野村で象が飼われていたことをご存じですか。

現在「朝日が丘児童館」の公園となつている場所(本町2-32)に象小屋がありました。

1728年(享保13)6月7日、江南(今のベトナム)から長崎に着いた船に2頭の象が載つていました。7才のオスと5才のメス。象の年は人間に換算しても同じくらいですから、2頭ともまだ小象で、メスは間もなく死んでしまいました。残された1頭が象使いの安南人2人、日本人の象使い見習い2人、通訳、長崎代官の役人など総勢14人に伴われて徒歩で江戸に向かつたのが翌年の3月13日。道中はいずれも黒山の人だかり。関門海峡はさすがに船で渡り、4月16日に大阪、同26日に京都。中御門天皇上覧の際は、上覧には官位が必要なことから、この小象、

『江南従四位白象』の官位を賜り、箱根の関所を越えて江戸は浜離宮に着いたのが5月25日。將軍上覧は27日。

吉宗は初めて見る象に大喜び。時々、浜離宮に行つては自ら象に餌をあたえたとか。しかし、やがて問題が。「享保の改革」で幕府の赤字財政を立て直した吉宗はもともと儉約家で、食事も1日2食。ところがこの象の食事ときたら、1日に米8升、饅頭1000個、みかん100個、藁120kg

笹の葉90kg、草120kg等々。江戸に着いた翌年(享保15年)には早くも払い下げのおふれがでましたが、すさまじい量の餌に誰も引き取ろうとしませんでした。

象はどうなつたか。ここから諸説入り乱れます。引き取り手がないうちに、それから10年間、浜離宮で飼育されたという説や、享保17年に幕府直営の象舎が中野に造られたとか、いや1741年(寛保元年)に中野村の源助が引き取つたとか。

この源助なる者は浜離宮まで象の餌を運んでいた百姓ですが、同時に糞の処理を一手に引受け、当時流行つていた疱瘡やはしかに効く薬として売り出し大儲けしました。糞でなく象の涙という説もあります。幕府が毎日の餌代をつけて源助に象の飼育を任せさせたのは事実です。彼は象を見世物にして客から見物料を取つたり、象に与える饅頭と同じ形の『ゾウ饅頭』を売り出したりしてしばらく左団扇でしたが、そのうち見物客も見飽きて減るようになり、見世物で儲けている話しを耳にした幕府も餌代の支援も打ち切りしました。

さて、象はどうなつたか。寒さと栄養

失調で死んだのが1742年、いや43年、いやいや49年とこれまた諸説紛々。二十歳に成るか成らないで異国で孤独死した可哀そつな象は皮を剥がされ(これは幕府に納められ)頭骸骨と2本の牙と鼻の皮は源助に。これが今、中野宝仙寺に伝わる『馴象之枯骨』(じゅんそうのこころ)です。



「武蔵名勝図会」に描かれた中野の象



象小屋跡の立て札(朝日が丘児童館の公園)

明日の中野にハッキリ決断、すばやく実行!

新春・日帰り懇親会の参加を募集しています

佐野厄よけ大師初詣と鬼怒川温泉

平成19年も良い年であることを祈念し、佐野れいじ後援会主催の初詣を行います。

今回は「佐野厄よけ大師参拝」のあと、鬼怒川温泉「あさやホテル」でカラオケと昼食懇親会、もちろん温泉も楽しんでいただけます。帰路には、おみやげ店などに立ち寄ったりと内容も盛り沢山です。



あさやホテル

日程と募集要項

日時:平成19年2月4日(日) 7:20出発 19時帰着予定

なお、集合場所等については後日、ご参加の皆さまにご連絡いたします。

費用:7600円 バス代、昼食・入浴料金が含まれます。 タオルの用意があります。

締切:平成19年1月15日(月) 直前のキャンセルについては、会費の返金ができません。

連絡先:佐野れいじ後援会事務所

〒164-0012 中野区本町3-3-4 TEL.5302-0891・5354-8172 FAX.5302-0892

短 信



地元の祭りでの佐野議員(9月)



屋形船で親睦会(8月)

親友で俳優の田村亮さんと(10月)

